

年報第3号の発刊に寄せて

学会長 廣瀬和貞

(株式会社アジアエネルギー研究所 代表)

(公益財団法人廣瀬資料館 理事長)

日本信用格付学会の年報「信用格付研究」第3号が完成しました。広く信用格付にご興味をお持ちの方々に、目を通してご参考にして頂けることを願っております。

当学会は、2002年に設立された特定非営利活動法人フェア・レーティングを前身として、2021年11月に同法人を発展的に解消して新たに発足した、歴史の新しい学会です。当学会の設立の趣旨は、日本における信用格付についての研究の質と量をさらに高めていくことにより、日本の債券市場、ひいては資本市場全体の健全な発展に貢献することです。具体的な研究テーマとしては、(1)起債者と投資家の間の情報の非対称性が信用格付によって是正されているか、換言すれば、信用格付制度が有効に機能しているかどうか、および(2)起債者・格付会社・投資家の間で、利益相反が生じていないか、等についての実証分析や、(3)日本企業の中長期の資金調達において依然として銀行借入が太宗を占めており、社債の利用が増えない原因は何か、等を課題と考えています。

このような趣旨により、当学会の特徴としては、会員の構成において、信用格付を大学や研究所において研究の対象とする研究者や大学院生を中心としつつも、格付会社において実際に信用格付分析に携わっているアナリストや、信用格付を業務に活用している機関投資家や金融機関、債券発行企業の役職員、つまり実務に携わる会員も多いことが挙げられます。

当学会の年次大会につきましては、2022年の第1回と翌2023年の第2回の大会は、いずれもオンライン会議の形式で行われましたが、昨年2024年9月の第3回全国大会は、初めて会場にて対面の形式で開催しました。各大会の統一テーマは、第1回大会は「資本市場における信用格付の役割」、第2回大会は「パンデミックの発生後、マクロ政治・経済環境の不確実性が高まるなか、信用格付が果たした役割」、そして直近の第3回大会では「サステナブルファイナンスの現状と未来：格付への影響とその課題」としました。第3回大会においては、四つの講演報告とシンポジウム、また自由論題報告を一つ、ご発表頂きました。当学会として初の対面による開催ということもあって、各報告、シンポジウムともに、活発な質疑応答や意見交換がなされました。

各報告の題目と発表者は、午前に行われた自由論題報告は、「韓国における人為的寡占状況にある信用格付産業の諸問題」(阪南大学・中西正行様)、午後に行われた講演報告は、「進化を続ける ESG 投資」(みずほ証券・香月康伸様)、「上場会社の ESG 情報開示の現状と課題」(一橋大学・円谷昭一様)、「サステナブルファイナンスの経営戦略における位置づけ～トランジションファイナンスを例として」(日本

格付研究所・梶原敦子様)、「サステナブルファイナンスと信用格付」(専修大学・湯山智教様)でした。また、発表後には、四人の講演報告者の方々にパネリストをお願いして、統一テーマに沿ったシンポジウムを開催しました。開始前にフロアの皆様から多くのご質問をお寄せ頂き、パネリストの方々からもご教示を多々頂戴でき、実りの多いセッションになったと思います。

この度お届けする年報第3号には、上記の第3回全国大会におけるご報告の内容を基に、円谷様・湯山様・香月様・中西様の各論文を収めております。ご多用の中、玉稿をお寄せくださった方々に深く感謝いたしますとともに、会員の皆様をはじめ、幅広い領域の多くの読者をご参考にしていただきますことを希望いたします。

お蔭様で、設立以来、当学会の会員数は順調に増加しておりますが、まだまだ若い学会でもあり、より多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。研究者、学生、実務家を問わず、信用格付にご関心のある方は、当学会のホームページまたは学会事務局アドレスを通じてご連絡ください。

日本信用格付学会ホームページ: <https://www.cra-j.org/>

日本信用格付学会事務局アドレス: shinyoukakuduke@outlook.jp

以上